

THE BROTHERHOOD / Tables I-VI  
by Woody VASULKA  
ウッディ・ヴァスルカ



・男性アイデンティティについての諸問題をめぐるという「ブラザーフッド」(インタラクティブ・コンストラクション・シリーズ)のメインテーマは、同様に、人類の一般的な衝動、自然を再編成したいという止めることができない欲望について考察することでもある。

この衝動にかられた行為は、さまざまな社会的あるいは哲学的な諸相を、分裂と対立の状況へと導いていく。主として、それは人類発展のために欠くことのできない、黙認されたものとして戦

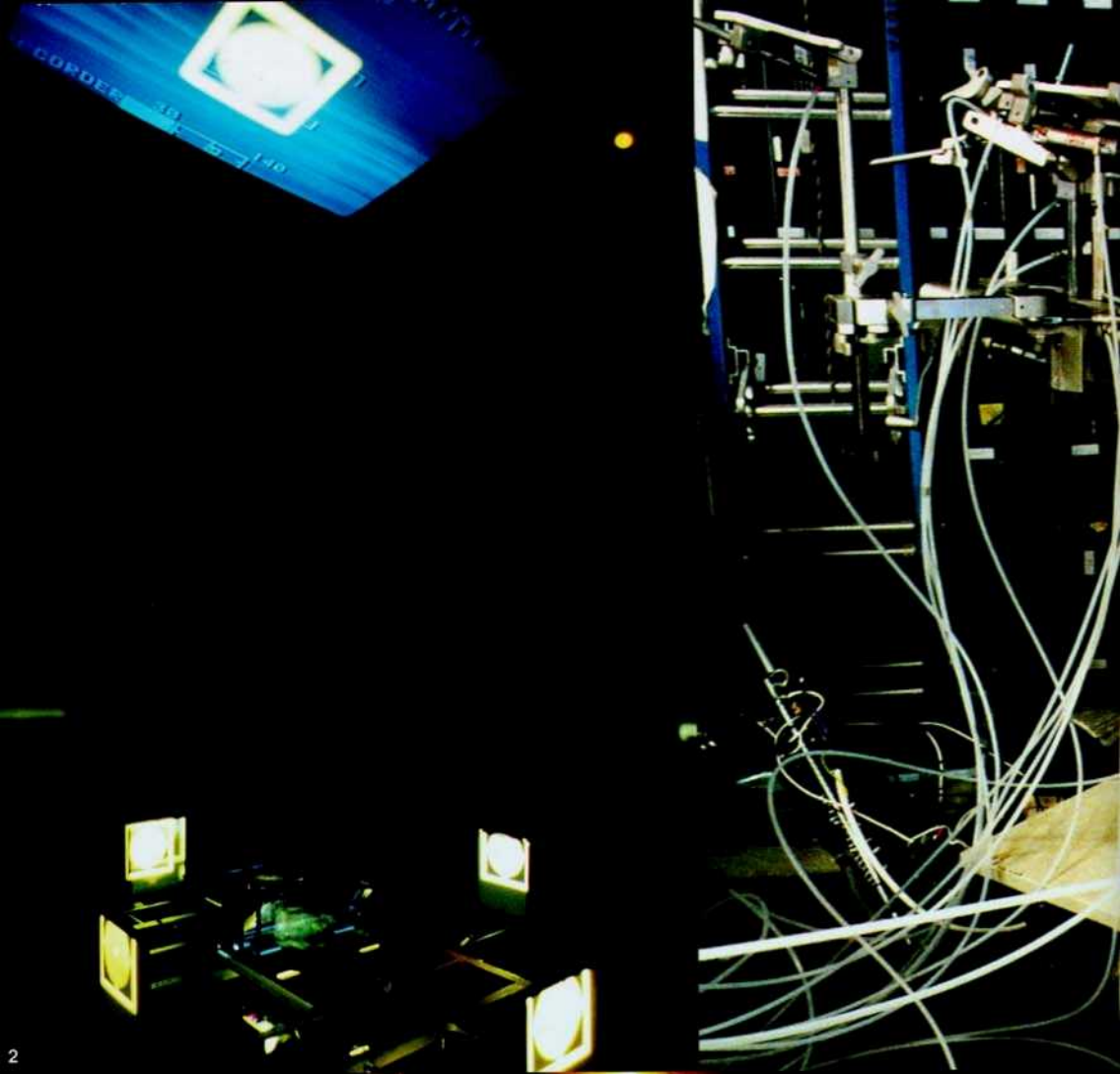
争における勝利の旗印として存在するのである。それはすべての実験者、ようとする人類のユートピアについてのコンセプトを繰り返し検証し、また、それに替わって、男性性欲を主張し、その危険な価値——最も明白な脅迫の姿、ポーズを示し、最終的に、戦争を指揮するものとなる。

「ブラザーフッド」は、革新派の意見を主張するものではなく、もちろん男性主義を弁護するものでもない。「ブラザーフッド」は、男性の立場にやはり好意

的に立脚するものであるが、その明らかに自滅的、自虐的な運命への、皮肉な視線に抗うことはできないのである。■

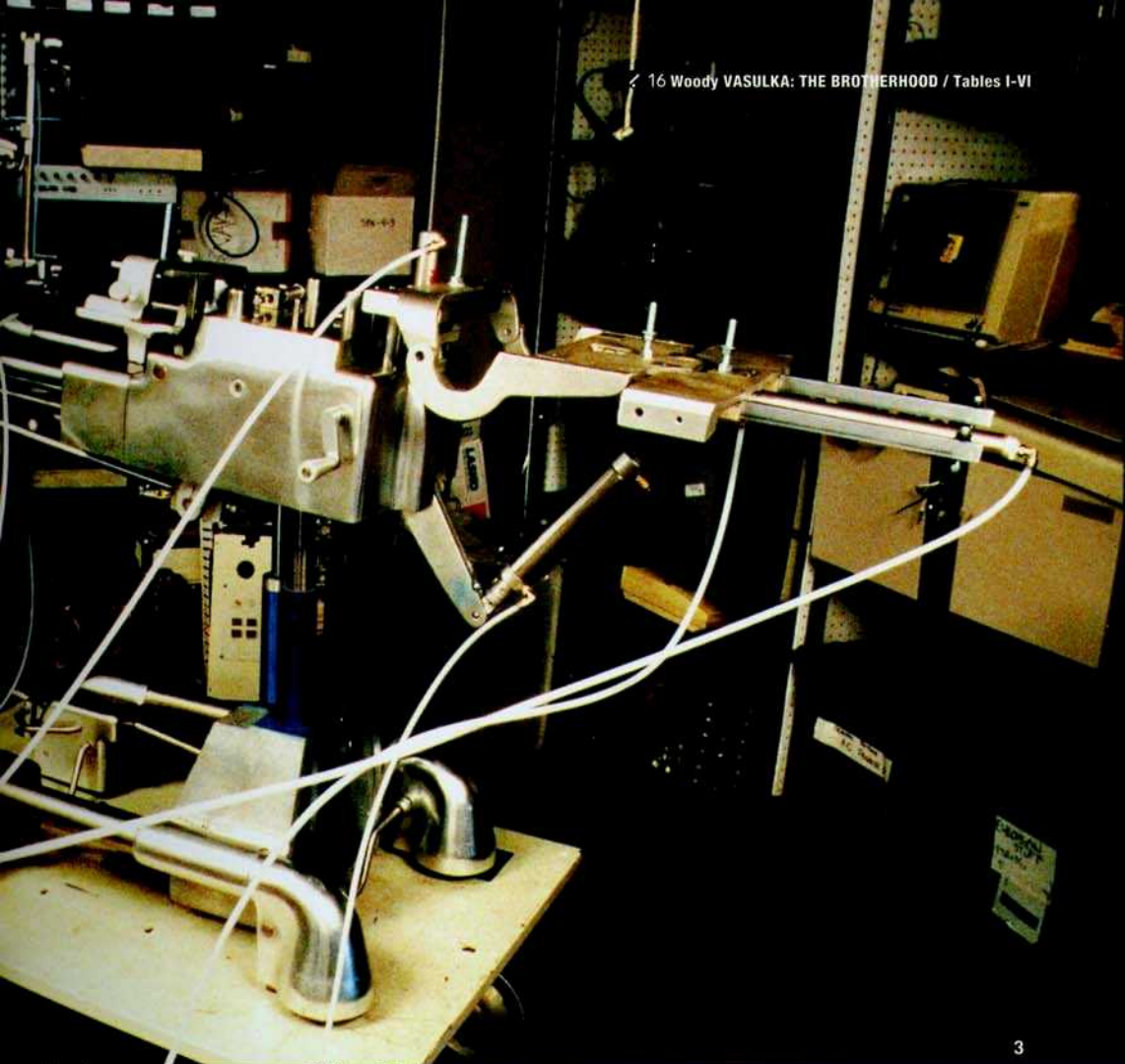
(訳・構成=佐々田寿徳)

ウッディ・ヴァスルカ——1937年アイスランド生まれ、チェコで工学を学び、映画映写の監督などを務める。65年渡米し、妻スタイン(40年生まれ)と協同制作を始める。コンピュータ、グラフィックス、ビデオ・インストールなどを発表し、国際的な活躍を重ねている。ごごたひさのり——1962年生まれ、IOC学委員。

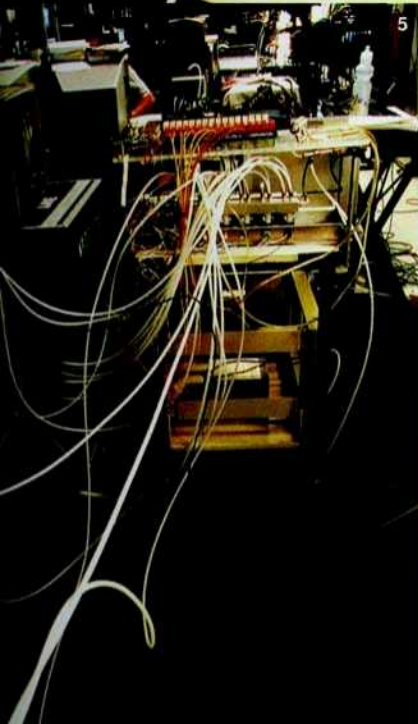


2  
4





3



5



6

- 1.〈ブラザーフッド／テーブル6：メイデン〉とウディ・ヴァスルカ 1997(サンタ・フェのスタジオで)
- 2.ブラザーフッド／テーブル3：フレンドリー・ファイアー 1994-96
- 3.ブラザーフッド／テーブル6：メイデン 1998
- 4.ブラザーフッド／テーブル1：トランスロケーションズ 1994-96
- 5.ブラザーフッド／テーブル5：スクライプ 1998
- 6.インタラクティブ・パフォーマンス〈ヴァイオリン・パワー〉を演ずるスタイナ・ヴァスルカ 1995

\*ウディ・ヴァスルカ展は7月17日-8月30日、ICCで開催されます(詳細は本誌p.186をご参照ください)。